

# 地球市民学

## 共生と平和の科学

### 第2節 地球市民学 後期

原 順子・三小田 博 昭  
中 村 明彦・佐藤 良子\*

【抄録】 後期の地球市民学は『共生と平和の科学』という講座名で授業実践をしている。SLPのみならず本校のESD（持続可能な開発のための教育）の一環としても機能している。講座開設から12年度で11年になる。今年度は生徒が仮説からどのように検証していったかを中心に実践をまとめる。

【キーワード】 共生 平和 子どもの人権 ジェンダー 貧困 国際協力 ESD

#### 1. 講座の目標

後期の地球市民学は『共生と平和の科学』という講座名で授業実践をしている。現在起こっている地球上の諸問題を「子どもの人権」「ジェンダー」「貧困と国際協力」という具体的・多面的な視点から探究し、地球市民として解決に向けて自分たちに何ができるかを科学的に学ぶ講座である。過去9年間にわたり次のような目標を掲げている。

- (1)地球上の様々な集団が互いに認め合い、平和に共生共存できる可能性を探ることができる。  
(認知的目標 本校SSHの目標では B・C)
- (2)同じ時代を生きる身近な人々や地球上の遠く離れた人々の生活に関心を持つことができる。

- (情意的目標 本校SSHの目標では A・D)  
(3)持続可能な共生社会の実現のために自分たちに何ができるかを考えて行動することができる。  
(態度的目標 本校SSHの目標では B・C・E)

#### 2. 学習方法—SLPⅡの独自性

SSH 2期実施1年目の本年度は「子どもの人権」「ジェンダー」「貧困と国際協力」の3つをテーマに目標達成を目指す。学習方法は1期から一貫している。それは、①複数の教員（1クラスに3人）、②学外講師の授業、今年度は、共同授業者として愛知淑徳大学異文化コミュニケーション専攻の佐藤良子先生に来ていただいた。③題材は教師が選ぶ、④答えのない問題に取り組む、の4つを講座の独自性として掲げていることである。

#### 3. 実践内容

##### (1)年間授業計画

テーマ			子どもの人権	ジェンダー	貧困と国際協力
内 容			子どもの人権に焦点をあて、世界の子たちを垣間見ながら自分たちの生活を振り替える。	ジェンダーの視点で、差異のある集団が共生していくには、どうすればよいかを考える。	「貧困」・「国際協力」という課題に向き合い、自分たちがやるべき協力活動を探る。
担 当			三小田・佐藤	原・佐藤	中村・佐藤
回数	月	日	導 入（仮説をたてる）		
1	10	12	オリエンテーション 原「sexとgender」 中村「貧困はどこから」		
2		26	オリエンテーション 三小田「世界がもし100人の村だったら」 「共生と平和の科学のねらい」 佐藤先生 事前アンケート・希望調査		
3	11	2	教室の四隅・台湾高校生訪問		
展 開（検証する）					
4		9	マインドマップから仮説を立てる	マインドマップから仮説を立てる	マインドマップから仮説を立てる
5	12	7	グループ仮説発表会 合同授業		
6	12	14	子どもの権利条約（国際協力と合同）	佐藤良子先生講義「性差別の変化」	子どもの権利条約（国際協力と合同）
7	12	21	自分を見つめるエゴグラム 合同授業		

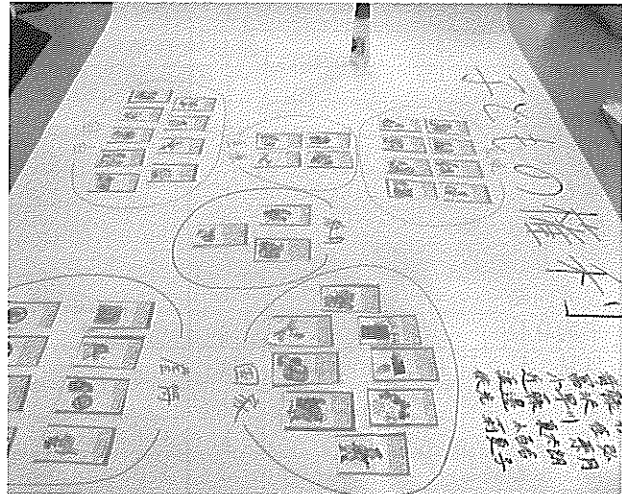
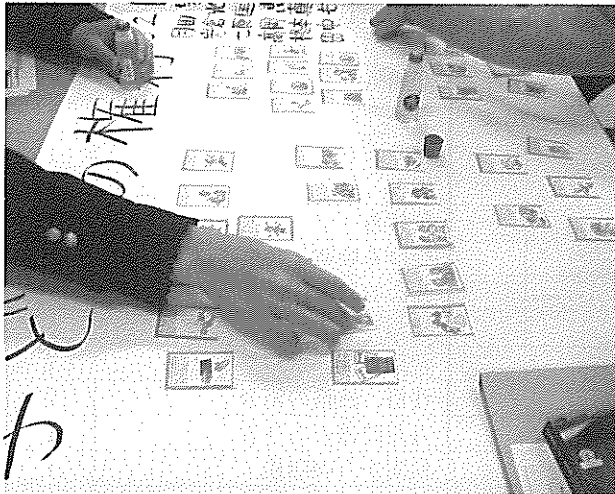
\*愛知大学准教授

8	1	11	子どもを取り巻く環境 モンゴル留学生	冬休みの課題発表 メディアリテラシー	援助は誰のため 何のため
9		18	効果的な援助とは①	教育とジェンダー ノルウェーの教科書	フェアトレード～ コーヒーから考える
発 展					
10	1	25	効果的な援助とは②	世界のジェンダー 豊かさを はかるものさしHDI	協力隊OBの体験談
11	2	1	リプロダクティブヘルスライツ (スコラ名古屋) 子どもの人権とジェンダーの合同授業		協力援助の気をつける点 問 題発生の原因追及
12		8	児童労働	AA (affirmative action) /PA (positive action) の可能性	国際協力プロジェクトを考える
ま と め					
13	3	2		集 録 作 成	
14		9	ま と め の ワーク 地球市民として私たちにできること		

## (2)子どもの人権グループの取り組み

日常生活の中で、子どもの権利を意識して生活している本校生徒はほとんどいない。子どもの権利条約について耳にしたことのある生徒は少なからずいるが、その内容に精通している生徒はあまりいない。どのような権利が子どもにはあるのか、という問に対しては「プライバシー」「教育を受ける権利」などに留まる。そこで、

まず子どもの権利条約について知ることから始めた。使用した教材はunicefの「子どもの権利条約 カードブック」を利用した。子どもの権利条約がそれぞれ記載されている51枚のカードをKJ法を用いてグルーピングし、子どもの権利条約はそのような条約なのかを視覚化することから始めた。下はその時の様子である。



また、ゲストティーチャーとしてモンゴル出身の名古屋大学の留学生であるエンゲレルさんを招き、モンゴルにおける子ども達たちの様子を聞いた。民主化以降、ウランバートルではいわゆるストリートチルドレンの姿はほとんど見られなくなり、親の子どもに対する教育熱も高くなってきているとのことであった。しかし、都心部と地方では状況が大きく異なることが問題であるとの指摘もあった。名古屋大学ではモンゴルを始めアジア地域からの留学生が多く学んでいる。このような利点を活かして多様な国からゲストティーチャーを招き、日本の生徒とディスカッションをすることは「共生と平和の科学」の授業展開において非常に有意義なことである。

## (3)ジェンダーグループの取り組み

「男と女の違いは何か」という問をオリエンテーションで生徒にした。B5サイズの紙にマーカーで大きく書かせ、黒板に貼らせる。黒板を見て「違いの違い」を考えさせ「何時の時代も変わらない違いと変わりうる違い」に書いた本人に分類させた。変わらない違いをSEX (生物学的性差) といい、変わりうる違いをジェンダー (社会的性差) というと説明して、この講座ではジェンダーについて考えて行くことを伝えた。結果は下表の通りである。



2012生徒の考えた性差 (高校2年生 115名 2012/10/12)

SEXに分類 (人)		NEUTRALに分類 (人)		GENDERに分類 (人)	
体格	6	価値観	2	見た目・外見	5
体のづくり	4	体格	1	考え方	4
体	3	身長	1	男は考え方が雑、女は丁寧	1
身体構造・構造	2	体力とか筋力とか	1	価値観	2
あるか否か	1	脳	1	服・着ている物	2
いろいろな有無	1	髪の毛	1	身につける物	1
遺伝子型・染色体・	4	声	1	下着の数	1
ヒトとしての機能	1	考え方	1	スカート	1
身体能力	4	精神年齢	1	制服	1
能力	1	役割	1	雰囲気	1
できること	1	得意分野	1	男→理系、女→文系	1
力・筋力	2			髪の毛の長さ	1
体力	1			好み	1
脳の構造・脳	2			気持ち	1
考え方	1			つける職業・仕事	2
思考回路	1			社会的地位	1
平均身長	2			役割	1
外見・見た目	4			常識	1
容姿	1			性格、性格の割合	2
顔	1	GENDER		人間関係のあり方	1
声・声の高さ	2	食欲	1	世間からの印象	1
のどぼとけ	1	女 - 裏 (あいつらまじキモいんすけど) 男 - 表 (おまえキモい)	1	扱われ方	1
好み	1	異性の格好をしたときの反応	1	テンション	1
服装	1	下ネタの。男はネタとして普通に使用される、女はドン引き	1	行動力	1
可愛い?	1	セクハラになる、ならない	1	女子会があるかないか	1
切り離すとまもる	1	あるかないか	1	買い物の仕方	1
班決めにかかる時間	1	生殖器	1	可愛いのか、かっこいいのか	1
社会的役割	1	ホルモン	1	声の高低	1
全部	1	私はガタイがよい	1	トイレ	2
	53		12		50

注：分類は書いた本人によるもの

書いた本人の分類によるので、「考え方」「役割」はSEX、GENDER、NEUTRALのいずれにも分類された。SEXに分類されたものは同じ言葉を使って表現した(例: 体格が6人)生徒が多く、ジェンダーに分類されたものは様々な言葉で表現されていた。中にはセックスとジェンダーの分類が間違っている生徒もいる。2つの違いは明確な切りがあるわけではないので、今後、ジェンダーグループではこの結果を踏まえつつ、検証を進めていきたい。

#### (4) 貧困と国際協力グループの取り組み

「貧困」と「国際協力」という2つの大きなテーマが並列されているため、生徒への切り口としては、この2つのテーマの関連性を考えるところから始まる。「貧困」の背景には様々な原因があること、そこから派生する様々な状況があることは高校生の彼らにも考えられる。その知識の中で「貧困」が生み出す困難は、新しい困難や複雑な困難につながっていて、いわゆる「貧困の悪循環」を生み出している。困難な生活から抜け出すことが個人レベルだけでなく国のレベルにも非常に難しいことに気づかせる。その「貧困の悪循環」を断ち切るための手段が、「国際協力」であることを示すことで「貧困」と「国際協力」のテーマの共通性を理解させる。世界の「貧困と国際協力」と自分たちの生活は無関係ではないことに気づかせ、課題に向かって考えを出し合う授業を展開する。

### 4. 成果と課題 (仮説から見えてくること)

#### (1) 子どもの人権グループ

子どもの人権に関しては「自分たちの力だけでは負のスパイラルから抜け出せない。またお金が平等に分配されていないのも原因である、しかし国にどれだけお金があっても、個人がどれだけお金をもっているもバランスがよくなければならない。」という課題がある。この課題を解決していけば、私たちは地球市民として持続可能な社会をつくることができる。これが生徒の考えた仮説である。家庭と学校の往復で毎日の大半を過ごしているためか、生徒たちにとって「世界の大きさ」や「世界の複雑さ」に対して十分な実感が伴っていないことが垣間見える。また、「世界は余りにも大きすぎ」自分たちの力でできることが限られていると感じているように思う。仮説検証型の授業を通して自分たちができること、しなくてはならないことについて身近なところから感じ取っていきけるような授業展開が必要である。

#### (2) ジェンダーグループ

ジェンダーに関しては「性差は縮まりつつあるところと依然として残っているところがある。どうでもいいようなところで逆差別も生まれ(レディースデイとか)、

肝心なところ(社会参画とか)での問題が見えにくくなっている、という課題がある。この課題を解決していけば、私たちは地球市民として持続可能な社会をつくることができる。

これが生徒の考えた仮説である。現在この仮説を検証している。性差が縮まりつつある、と生徒が感じているものはファッション(化粧を含む)と言葉(一人称の多様化)であった。社会参画はこれから検証していくことであるが、一人の生徒の仮説をあげておく。『家庭や社会においては役割や責任の差、また、家庭を持つことへの意識や重要度の差の問題』。

#### (3) 貧困と国際協力グループ

貧困を削減することが、貧困に苦しむ人々にとっても、日本の私たちにとってもよりよい未来につながる。そういう視点で、貧困の問題を捉えられるかという課題がある。自分の問題として貧困を削減するための行動が国際協力につながってほしい。授業では「知る」「調べる」「気づく」だけでは終わらせないで、貧困削減のための具体的な第1歩を踏み出して行くための各自の考えを表現させる機会を多くつくる必要があると考える。

また、国際協力にはどんなものがあり、どのような成果を生み出しているのか、また、意味のある国際協力を進めるためにはどんな注意が必要か、そして、国際協力の機会は、身近なところにもたくさんあることに気づかせる授業展開が必要である。